日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
自然地理学・環境防災教育小委員会（24 期・第 2 回）
議事録

日時　2018 年 7 月 15 日（日）14 時 30 分～15 時 40 分
会場　慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 1F ラウンジ
出席　春山，奥村，久保，近藤，鈴木康弘，宇根，恩田，日下，小岩，須貝，山口（オブザーバー)
欠席　鈴木毅彦，山縣，山野，篠田

1．報告事項
２４期・第１回議事録（確定済み）を再確認した。

2．検討事項
以下の各項目について意見交換した。
１）学習指導要領解説書の準備が進んでいるなかで、自然地理の教育をどうすべきか
・生徒が興味をもつかどうかが鍵。課題学習の取り組みが重要。SDG's に取り組むこと、地図をつかった、通学路の災害リスクを学ばせるなどのカスタマイズ（マイ・ハザードマップの作製)、授業の組み立てが要求される。
・持続可能な社会づくりのための地理教育の成果が数年後に評価される。教員研修を含め、だれがやるか、自分のこととして考える必要がある。
・自然地理嫌いをなくすにはどうすれば良いか。歴史の先生にも馴染みがあるように教えていかなければならない。
・環境、防災などの応用的な面が強調されてくる。持続可能な社会づくりのなかの、基礎としての地理、自然地理の重要性は変わらない。自然地理を扱う上で災害のみ強調しない方がよい．自然からの恩恵もある．

２）教材素材集への取り組み
・「地理総合」「地理探究」を軌道にのせるため自然地理として協力が必要。配布資料４のように新たな章立てを考えた小委員会としても、小項目の追加を含め、素材集への取り組みを進める。
・歴史の先生がみて、教えられそうな易しさがあると良い。解説が公開されるので、それとの整合性を考えつつ、教材として使えるよう内容を吟味すべき。

３）教員研修への貢献
・自然災害と環境、とか、大項目ごとに講師を引き受けられるメンバーをリストして、教育委員会へ情報提供すべき。